



東西しらかわ小学校長会 広報部

第 3 号 令和元年 7月 3日
 発行人 会長 佐久間 芳雄

「令和」の時代を背負って立つ教員を育てよう

東西しらかわ小学校長会長 佐久間 芳雄
 (白河市立白河第二小学校長)

いよいよ2020年に新学習指導要領が完全実施となる。新しい「令和」の時代にふさわしい指導力のある教員を育成することが校長としての大きな役割だと考える。

本校では以前より、授業を進める上で身につけたい指導技術として「発問の完全成立・完全反応」「教師の軌跡」「発言回し」「構造的な板書」の4つを大切にしてきた。

発問を学級の全員に行き渡らせる「発問の完全成立」、子どもたち全員が挙手をするなど何らかの反応をする「発問への完全反応」。教師の立つ位置や動きを「教師の軌跡」と呼び、黒板の前だけで授業を進めずに、話す子どもの近くに立って他の子どもたちの聞き方を指導したり、話す子どもの遠くに立ってその子どもの話し方を指導したりする。話し合いをするとき、T-C（教師と発言した子どもだけのやり取り）と、一つの発問に対して一つの回答で終わるのではなく、答えが同じであっても3人、4人の回答を求め、その回答に対しての自分の考えを発表させる。「〇〇さんと同じで、～です。」「〇〇さんと違って、～です。」など前に発言した子どもの意見に自分の考えを付け足した発言を促す「発言回し」。よい板書は、子どもたちの思考や発言を活性化させ、学習内容の理解や習得を助ける。子どもの発言はすべて書くか、あるいは結論となったことだけを書

くかを十分に考え、板書する。問い・めあては黄色のチョーク、まとめは赤色のチョークで囲むのも本校では共通実践事項である。

本校に赴任した教員はまず、この4つの指導技術の習得を目指すことになる。4月に代表の教員が「パイオニア授業」を行い、全教員に4つの指導技術を使った授業をやってみせ、みんなで4つの指導技術について確認することからその年度の校内研究がスタートする。今年は講師として県南教育事務所の齋藤雅彦主任指導主事をお呼びして、「パイオニア授業」について全体指導をしていただいた。本校の研修主任を務めたことのある齋藤主任指導主事のお話は、先生方の心にしみ込んでいったようだ。

研究公開は2年に一度で、今年は研究公開がない年だが、公開のあるなしに関わらず毎年筑波大附属小学校の先生においでいただき、教科研究を行っている。6月5日(水)には理科の指定授業(本校の理科部の先生が授業し、全員で参観する)と講師授業(筑波大附属小の辻健先生が授業を行い、全員で参観する)があった。新学習指導要領に対応した最新の授業を自分の勤務する学校で目の当たりにできるのは大変恵まれていると思う。しかも、国語、社会、算数、理科の4教科を年に1回ずつ4回参観できるのだ。講師授業のあとは子どもたちを早めに帰して、全員で事後研究会を行った。理科の授業の在り方について熱い研究協議が行われた。夜は講師の先生と授業者を囲んで慰労会を行い、充実した一日となった。

国語、社会、算数については、2学期に指定授業・講師授業を計画している。特別支援教育についても、福島県特別支援教育センターの指導主事をお呼びし、授業研究を行っている。昨年度は4教科に加えて初めて特別支援教育の研究公開を行った。今年度はこのほかにも、教科部会ごとの部会授業や「学びのスタンダード」に係る要請授業(指導主事の訪問)、道徳科の全体授業研究など、全部で25回の授業研究を計画している。

研修で教員を育てる。充実した校内研修を行うことが重要である。「教師力を磨き、学校力を高める」…本校の学校経営ビジョンの最上部にある文言である。新しい時代を背負って立つ教員を育てながら学校運営を推進することが、校長の大きな仕事である。

「勉強はなぜするの？」

熱く冷静な校長として

東西しらかわ小学校長会副会長 木村 真一
(白河市立信夫第一小学校長)

今年度本会の副会長として就任し早4ヶ月目になりましたが、本会の発展にどれだけ貢献しているか振り返ると役職の責に至らない自分に反省をしているところです。

ところで、本校は、平成28～29年度に青少年赤十字(JRC)研究推進校に指定され、「気づき、考え、実行し、振り返る」児童の育成を進めてきました。JRCでは、赤十字の基本理念である人道的価値観を身に付けて、主体的に行動できる自立した個人として成長できることを願っています。

これは、学校教育が目指すところと同じです。研究推進においては「人道的価値観」を教職員と児童が共有できることが大切であることを改めて知りました。また、赤十字では人道事業の障害となる要素を4つ挙げています。それは、「利己心」「無関心」「認識不足」「想像力の欠如」であり、「人道の敵4つ」としています。

この4つの敵は、人間、誰の心の中にも潜んでいる強力な敵ではないでしょうか。

私は、これを「勉強はなぜするの？」の究極の答えにしようと考えました。「人道」とは、優しさ、思いやり、協力といった、相手を大切にする心です。児童には、いつも自分の心の中には、「自分だけを大事にしようとする」「気づかない、考えない、実行しない、振り返らない」「知らない、知ろうとしない」「想像できない」という言葉に置き換え、4つの敵が心にいることを伝えました。

そして、社会や世界に関心を持ち、知識を深め、事実を知り、他人の気持ちを思いやれる想像力や新しいアイデアを活かせるような人になるために、例えば、国語の勉強では、言葉のきまりや使い方を理解する、言葉を使って伝え合う力を身に付ける。例えば、算数の勉強では、身の回りのできごとを、数字や図表などに整理し、筋道を立てて考え、問題を解決し、新たな問題に立ち向かう力を身に付ける。だから、毎日、学校に来て友達とともに勉強をしているのだという意味付けをしました。

「勉強はなぜするの？」それは

「人道の4つの敵」に打ち克つためです。

白河市立白河第一小学校長 菊池 篤志

4月1日、職員の素晴らしい校歌斉唱に迎えられ、7年ぶりに学校に着任したとき、「自分の居場所は間違いなくここだ。」と実感しました。残り2年の教員生活を、この場所にしっかり根を張って頑張ろうという気持ちになりました。自分のできること、今まで「こう在りたい」「こうしたい」と思ってきたことをしっかり進めていくつもりです。

さて、ハイドンの交響曲第5番は、「校長先生」という通称で呼ばれています。第2楽章の規則正しいリズムからその名がつけられたとのことです。また、夏目漱石の「坊ちゃん」では、校長は「たぬき」です。事なかれ主義で、いつも寝ているイメージから名付けられました。これらことから、昔の校長のイメージは、「規則正しい」「冷静沈着」、悪く言えば「何もしない」「事なかれ主義」「不動」というところでしょうか。

しかし、今、求められている学校のリーダーとしての校長は、「強く熱く教職員を牽引する」現代的イメージと、「何ごとにも動じない。冷静。」という近代的イメージを合わせもつものとなっています。

そのような校長像を貫くことは、なかなか難しいかもしれませんが、私は、そのような校長像に近づくために、「常に職員の言動を目で追い耳を傾けてアドバイスをしていくとともに、何にも動ぜず冷静に判断するための材料を普段から常に準備しておく。」ことを忘れずに進めていきたいと思っています。

さて、「こうちょう」と発音する言葉はかなりあります。校長像を様々な「こうちょう」で表現すると、以下のような感じですかね。(いつでもどこでも同じ事を言っています。)

常に**広聴**し、(常に多くの人から意見を聞き)
誰もが話を**高聴**する、(だれもがよく話を聞いてくれる)

時に**更張**して**高調**にし、(たまにゆるんだ事を改めて盛んにして調子を高め)

紅潮するほど**好調**だが、(顔が紅潮するぐらい好調であるが)

おりおり**硬調**な校長(ときどき固い感じの校長)

共有できる (分かち合える) 喜び

白河市立白河第三小学校長 小玉 昭男

このたび、6年間の行政勤務からようやく解放され、学校現場に戻ることができました。特に、県南教育事務所勤務の4年間は、東西それぞれの校長会主催の歓送迎会や新年会に交えては頂いておりましたが、あくまでも「準会員」としてであり、どこか“蚊帳の外”の感じがありました。

4月から「正会員」として皆様の仲間に入れて頂き、多少の不安はありましたが、その喜びを噛みしめ3ヶ月が過ぎました。「正会員」と「準会員」の大きな違い、それは“共有できる (分かち合える) 喜び”であると思います。新学習指導要領の完全実施、いじめ・不登校対策、教職員の多忙化解消等、学校が取り組む課題は山積していますが、それらについて、各校の校長先生方と情報を共有し、自校の改善策を見いだすことができます。校長会は、長く学校現場を離れていた私にとっては大変ありがたく本当に心強い存在です。

また、“共有できる喜び”は、自らが勤務する学校現場にもあります。白河三小の子どもたちと教職員の自慢をさせていただきます。以下は、先月の所長訪問の際の経営概要説明資料の一部です。

【白河三小の子どもたちと教職員】

- ・ 全校集会時の集合整列。510名の児童の大移動であり、多少のざわつきは当然なのだが、子どもたちは、静かにしかも素早く整列できることに驚かされる。上学年、中学年、低学年の順に移動し手本を示している。
- ・ 授業中の離席等、各学年に特別な支援が必要な子どもが存在するが、随時、特別支援教育コーディネーターを中心にケース会議が開催され、支援策が検討されている。
- ・ 頻繁に校外外における生徒指導事案が報告されるが、これは教職員のアンテナの高さの成果である。その後の聞き取り、個別指導、保護者対応について、担任、生徒指導、8学年、管理職と、組織を挙げて迅速かつ丁寧な解決に努めている。

「白河三小の教育のためにこれは譲れない」「ここは踏ん張る」という“危機意識を共有”している教職員集団に、4月から何度も勇気もらってきました。多少の危機も“喜び”に変わります。

私の学校経営はまだ始まったばかりです。校長会の皆様、そして教職員と“共有できる (分かち合える) 喜び”を大切に、日々努力して参りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

地域の想いを受けて

白河市立関辺小学校長 宗像 克典

新任校長として初めての入学式。その会場に新調した校旗がありました。前任の益子校長先生、PTA役員、保護者の皆様のご尽力により、地域の方々からの寄付で作っていただいた校旗です。

「関辺小学校の校旗作製に御協力をお願いします。」役員の皆様が学区を一軒一軒まわり、寄付のお願いをしたそうです。子どもが在籍していないご家庭も、「地域の学校を応援したい。」と協力してくれたとのこと。

ところで、関辺小学校は、学区に大きな工場と国道が有り、登校の時間帯から物資輸送の大型車が頻繁に通ります。細い路地でも国道の裏道となるため、コンテナを積んだトラックが登校班の脇を通過するなど、安全面には特に注意を払わなければいけない環境です。

「子どもは地域の宝。」そう言いながら毎日、登下校を見守ってくださる地域のみなさんがいます。国道の横断歩道、信号の無い三叉路など、危険箇所登下校の時間帯に合わせ立哨指導をしてください。交通事故防止だけでなく、昨今の子どもを狙う凶悪犯罪の予防の面でも、心強い見守りになっています。

PTAの奉仕作業では中学生や祖父母まで、家族のみんなが協力してくれます。運動会ではご来賓の方々を始め、多くの地域の方々に参加いただき盛り上げていただきました。

このように地域の全面的な協力と応援を受け、学校を経営させていただいていることに感謝し、保護者や地域のみなさんの学校への期待や想いを受け止め、「子どもが真ん中！」を学校経営で実践することで応えていきたいと思っています。

校章が絹で刺繍され、ずっしりと重たい校旗を見るたび、地域の想いに応えるために、どうすれば良いか、試行錯誤を繰り返す毎日ですが、東西しらかわ小学校長会のみなさま方のご指導を仰ぎながら精進して参ります。よろしく願い致します。



教育は人なり

「その席で何をしたか」を念頭に

白河市立信夫第二小学校長 長田 修一郎

以前、中央教育審議会にて「あるべき教師像」として、以下の3つのことが明示されました。

- 1 教職に対する強い情熱
- 2 教育の専門家としての確かな力量
- 3 総合的な人間力

どれも、教師として備えなければならない、必要な力だと思いますが、実際に考えると、これらすべて備えることはとても難しいです。しかし、この3つすべてではなく、この中の要素1つでも身につけようと努力する教師は、信頼される教師になっていくのではないのでしょうか。

私は、一緒に勤務していた中学校の校長先生に、常に「『教育は人なり』だ。」と言われていました。当時は、その意味を自分なりに理解したつもり、わかったつもりになっていましたが、その言葉を意識して、校長としての仕事をしてみると、改めてその大切さを痛感します。

私は、校長として教育にとって必要な「人」「もの」「金」について、どれか一つだけを選べと言われたら、迷うことなく「人」を選びます。どんなに立派な校舎で、完璧な施設・設備を整え、ふんだんに使える資金があるにしても、「人」に勝る要素はないと思います。「もの」や「金」だけでは、教育の成果、効果を上げることは難しいからです。

今後、学校教育で「人」、つまり信頼される教師はとても重要です。少々、「もの」や「金」の面で不足があるにしても、信頼される教師は逆境をバネにし、知恵と努力でそれらを克服していきます。ここに、「教育は人なり」の所以があると思います。AI がいくら進歩しても、意欲と活力に満ちた、信頼される教師は、恵まれない環境でも決して諦めません。むしろ、ファイトを燃やして問題を一つ一つ解決しながら、指導に当たっていきます。そのような「人」で構成される教師集団を、校長としてどうすればつくることのできるか、について考えています。

着任前、上司に『校長は「先生たちをいかに動かすことができるか」が大切だぞ。』という言葉いただきました。まさに「教育は人なり」だと肝に銘じています。

西郷村立羽太小学校長 鈴木 智浩

下校の時、校長室にいる私の姿を見つけると、元気よく手を振りながら「さようなら」と大きな声であいさつをしてくれる黄色の帽子を被った1年生の姿に癒やされている毎日です。中学校でしか勤務経験のない私にとって、今まで味わったことのない感覚です。赴任する前、小学校で勤務経験のある同僚から「小学生に冗談は通じませんかから気をつけてください」とアドバイスを受けてきました。そのこともあって児童に向かって話すときの内容や言葉も慎重に選んでいます。

私の一日は、見守り隊の活動で始まります。3つの場所を回って、安全に道路を横断させることが役目です。多くの見守り隊の方々には毎朝児童の集合場所から学校まで一緒に歩いて、児童の安全を確保して下さっています。感謝の気持ちでいっぱいです。

羽太小学校の今年度の児童数は66名です。1つの学年が10名ほどの小規模校です。そのメリットを生かすべく13名の職員で児童一人一人に応じた指導・支援ができるよう努めています。4月からこれまでの間で、小学校の先生方の仕事の大変さがよく分かりました。一日が始まってしまうと放課後までなかなか先生方と話をするチャンスがありません。また、校内外の行事がとても多く驚いています。

「その席で何をしたか」、教頭のときにある校長先生からお話しいただいたことです。その立場、立場でプライドを持って働くことを教えていただきました。何事にも一生懸命に取り組む子どもたち、その子どもたち一人一人に寄り添いながらきめ細かな指導・支援を続けている先生方、そして、協力的な保護者と見守り隊の方々をはじめとする学校の教育活動に積極的に協力をしてくださる地域の方々には羽太にはいます。「自ら育て～自主・自立～」の校訓のもと、子どもたちの健やかな成長を目指して校長として何ができるのか、何をしなければならないのかを見極めて、学校経営に取り組んでいきたいと考えています。

域内の校長先生方には、大変お世話になります。どうぞよろしくお願ひいたします。

滑津小学校に赴任して

中島村立滑津小学校長 室井 博人

中島村では毎年6年生がブリティッシュヒルズで合同の異文化体験学習を実施しています。今年度も6月に一泊二日で実施されました。2日間とも「English lesson」が数多く組み込まれており、とても充実した活動を行ってきました。私は小学生と同じレベルの英語力で lesson に参加しましたが、担当の先生の英語やジェスチャーで何となくどのように行えば良いか分かり、楽しくゲームなどを見ることができました。子どもと同じように充実した気持ちで帰校しました。しかし、しばらく時間が経つと「本当はあの先生は正確には何といったのだろう」と楽しかった反面、正しいかどうか理解していないのにまるで理解しているかのように行動していた事に対し、何となく釈然としない気持ちが残りました。

校長として、新しい学校へ赴任し、漠然と大枠は理解していても、細部は十分に理解していないまま判断を迫られている場面が多い気がします。果たして判断が正しいかどうか後から疑問に思う時もありました。

滑津小学校は、伝統ある学校であり、先生方が非常に一生懸命に働き、特に授業に関しての構えは素晴らしいものがあります。有能な職員の中で働いていると、自分の判断が正しいかどうか、校長として適切な指導を行っているのか、常に試されているような気もします。「職員以上に勉強し、アンテナを高くし、隅々まで見通せるよう努力しなければ。」とこの2ヶ月間で感じているところです。

来年度より新学習指導要領が完全実施となります。職員の働き方改革も進めていかなければなりません。学校の課題を明確にし、その課題解決のため、強いリーダーシップを発揮して進んでいかなければならないと考えます。

久しぶりに戻ってきた県南は、知り合いの校長先生方ばかりでほっとした反面、充実した研修ぶりに改めて校長職の役割を考えさせられました。県南の素晴らしい校長先生方に少しでも近づけるよう自分の力を磨いていきたいと思えます。

よろしく願いいたします。

素敵なクジャクの鳴く学校で

矢吹町立中畑小学校長 二瓶 敦

矢吹町の南部に位置し、街道のすぐ脇に建つ本校は、令和元年度を150名の児童でスタートしました。毎日元気に通う子ども達の姿を見るにつけ、日々願うことは、一人一人にとっての一日が今日も楽しく充実しますようにということです。本校の校門に入り、学校の玄関前に来ると、鳥小屋の中から、「アーオーッ！」という元気なクジャクの鳴き声が響きます。連続で何度も繰り返されることもあります。校庭の端までも響くその声に今日もみんなが元気をもらいます。特にスクールバスの到着時には良く鳴きます。子ども達を迎えてくれている様です。クジャクの名前は、「ジャック」君。我が校のシンボルバードです。

運動会練習が始まった5月中頃から、とても元気に良く鳴くようになってきました。鼓笛パレードのスタートの時も、1・2年生が校外学習に出かける時も鳴いてくれました。

こんな「ジャック」君ですから、中畑小学校での活躍度は最高レベルです。校長など遠く足下にも及びません。現在、中畑小学校のマスコットキャラクターとして、イラストがデジタルデータ化され、いろいろなところに活用されています。

全校児童の欠席者ゼロの日には、この「ジャック」君が、ポータルサイトに登場します。今年は、ポロシャツのデザインにも生かされました。

こんな「ジャック」君の存在を更に広く伝えるために、いろいろと策を考えていました。すると、「1年生を迎える会」で、児童会運営委員の皆さんより、校長への出番の機会が与えられました。この会で「クジャクさんが、1年生の皆さんのことをいつも応援していますよ」と紹介の鳴き真似をしてみました。1年生にもうまく「ジャック」君の大切さを伝えることができました。

それ以降も、良いタイミングで鳴いてくれます。これからも全校児童を、教職員を励ましてください。現在は1羽ですが、昨年度までは2羽いたそうです。もし、お嫁さんがいれば、元気な声が更に元気になりそうですが、今のところ、その話は舞い込んでおりません。果たして「ジャック」君に、夢の出会いは訪れるのでしょうか？ というところで、中畑小では静かに花嫁募集中です。

The Four Keys ～4つの鍵～

新任校長として・抱負

矢吹町立三神小学校長 岡部 史則

着任して3ヶ月、初めての校長職、初めての小学校勤務、初めての県南管内での勤務、運動会、鼓笛パレード・・・、多くの「初めて」がありました。職員室での会話では、児童を「生徒」と言ってしまうたり、算数を「数学」と言ってしまうことも・・・。環境に早く慣れることに心がけるとともに、自覚を持って過ごしていかなければといつも反省の毎日です。

本校は、創立140余年の長い歴史と伝統を誇る学校です。学校沿革史や校長室にある歴代校長の名札（現在第50代）、昭和63年度卒業生が製作した旧校舎の模型などからも、その歴史の重みを感じることができます。子どもたちは、田園地帯の広がる自然豊かでのどかな通学路を、「子ども見守り隊」の皆様を支えられながら、登校班長を先頭に集団で登校してきます。交通事故が、8,100日以上も起こっていないのは、子どもたちの安全意識はもちろん、家庭や地域、関係機関の皆様の協力があったのと、いつも感謝しているところです。

さて、ディズニーテーマパークには、ゲスト（お客様）に最高のおもてなしを提供するために「The Four Keys ～4つの鍵～」という行動基準があるそうです。キャスト（全ての従業員）が念頭に置き、常に判断や行動のよりどころにしているこの「4つの鍵」とは、「安全」「礼儀正しさ」「ショー」「効率（チームワーク）」であり、この並びがそのまま優先順位も表しているそうです。ゲストの「安全」性確保のために、コスチュームを身に着け、立ったままで清掃するのも「ショー」の一部だそうです。この話を聞いた時に、校長として最優先に考えることは、子どもや教職員の「安全」であり、この「4つの鍵」とその優先順位を意識することの大切さを強く感じさせられました。

まだ校長職として3ヶ月、目の前の業務をこなすのに精一杯の毎日ですが、あせらずに常に謙虚な気持ちで、一つ一つの職務をていねいに行っていきたいと思います。

「明るく・楽しく・前向きに」を心がけながら。

泉崎村立泉崎第二小学校長 武田 純

泉崎第二小学校の校長室から見える風景は、まるで避暑地を思わせるような素敵な景観です。桜、ユリノキ、エゴノキ、そして、その向こうに、子どもたちが休み時間に駆け回って遊ぶ「まはぎが丘」・・・。本校にご勤務された代々の校長先生方が、この景観を見ながら、きっと様々な思いをめぐらし、学校運営方針を決断し、学校経営を行ってこられたと思います。

この校長室から初めて見た風景から感じたことは、学校経営を行うというより、プレーイングマネージャーになろうとする意識を強く持ちました。ありのままの姿を受け止め、飾らず、学校の強み・弱みを整理し、これからの長期目標と短期目標を明確にし、学校として向かう方向性への手立てを立て、自らも実践し検証して、さらに次の手を考える。校長として3か月経った今は、その「手立て」や「こうだったら」と考える醍醐味があります。新任校長として、学校でなければできないこと、学校だからできることを考え、子どもたちが「失敗を恐れないこと」「関わり方を学ぶこと」「驚きや感動する気持ちを持つこと」「友達の笑顔を見るのが好きと感じる心を持つこと」「多様な体験ができること」「みんなで作り出す喜びが味わえること」、こんな学校が創れたらうれしいだろうと感じています。

ロバート・フルガムの著書で「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」同様、「人生に必要な知恵を手に入れる基盤は、すべてこの小学校で学んだ」といえるような学校を創っていきたいです。そこで、本年度の目標は、「やる気」「勇気」「元気」をもった子ども像です。子どもも先生も保護者も地域もみんなが理解できるようシンプルにしました。自分らしく、新任校長らしく、飾らず精一杯努力していきたく感じています。そう思うたびに、校長室に飾ってある写真の歴代校長先生方がなんとなく微笑んでくださっている気がします。あたたかく迎えてくださった東西しらかわ小学校長会のみなさま、関係者のみなさま、これからどうぞよろしくお願いたします。



よりよく生きるために

「働ける」ということ

棚倉町立高野小学校長 山口 洋志

県南に帰って参りました。

4月から高野小学校に勤務しています。平成4年から6年間、母校である棚倉小学校に勤務しました。今回が2回目の棚倉町勤務となります。前任校はいわき市立勿来第三小学校で、初めて単身生活を経験しました。いわきでの生活はほとんどしらがみがなく、ある意味気楽だったかもしれません。その反面、寂しさも感じていました。

地元に勤務することで何が違ってくるのでしょうか。いろいろありますが、一番は人との関わりです。当然ですが、知っている人にたくさん会います。巡り合わせと言いましょか、今の職場には同級生がいます。園長も兼務しているのですが、高野幼稚園には棚倉小学校での教え子が勤務しています。保護者の中にも教え子がいます。学校をサポートしてくださっている地域の方の中に、久しぶりにお会いした方もいます。懐かしさとともに、不思議な感覚になります。

さて、棚倉町がキャリア教育を推進していることは、皆さんご承知かと思えます。

キャリア教育について不勉強な私ですが、要は「一人一人がよりよく生きること」と捉えています。よりよい自分を目指して人生を歩んでいくこと。それは子どもたちだけでなく、大人にも求められます。まず、我々大人が人生を楽しんでいる姿を子どもたちに見せていくことが大事だと思います。人生はそう甘くない、苦しみの方が多いかもしれません。それでも、笑顔を大切に、前向きに生きていくことが、子どもたちの「気づき」につながっていくのではないのでしょうか。子どもたち自らが「やる気スイッチ」を入れること。そのためには、将来の夢(目標)をもつことが必要です。気づきを大切にし、自分の想いを少しずつ膨らませていってほしいと願います。

理想の人生には果てがないと思います。それでも理想の生き方や人生を追い求めることはできます。学校が家庭・地域と一体になって子どもたちの背中を押してあげたい。そのために何ができるのかを自問自答し、いろいろな人と関わり合いながら前に進んでいきたいと考えています。



白河市立表郷小学校長 大杉 和規

はたして、自分は、再任用校長として働きたいと心から思っているのだろうか。卒業式を終え、離任式を終え、退職の日まであと数日と残り少なくなっていく中、確固たる思いを持たずに迎えた4月1日でした。

再任用校長として4月から働くことになっていた私は、定年退職を迎える3月末から一月ぐらいはゆっくりしたいなとも思っていました。

しかし、4月1日、表郷小学校に着任し、「働ける場を与えてもらったこと」にありがたさを感じました。定年退職した私を、受け入れてくれる先生方がいる。しかも、笑顔で迎えていただける。「働ける」場があることは、こんなにもありがたいことなのかと感じました。私はまだ、働きたいと思っていたんだと実感しました。

「働く」の語源(諸説ありますが)は、「傍(はた)を楽にする」だといわれています。「はた」とは、周りの誰かのことであり、その誰かの負担を軽くしてあげる、楽にしてあげる、というのが「働く」の意味なのだそうです。

先生方が働くことに楽しさを感じられるようにしよう。子どもが学校を楽しんでいるようにしよう。再任用校長として働かせていただくからには、「傍を楽にする(楽しくする)」働きをしたいと思っています。

また、私は、退職までの数年「学校には、それぞれの教育目標を実現する力がある」と強く感じるようになりました。

創立23周年を迎えるみさか小学校では、地域と学校とが一体となり、教育目標「広い心でいつも輝いている子ども」を育てていました。創立133周年を迎える白河第一小学校では、1年、1年をしっかりと積み重ね、あこがれの6年生が育つ学校として、教育目標「自分に問いかけ、自分で考え、進んで行動する健康で品性の高い子ども」を育てていました。

そして、今、私は、表郷小学校の教育目標である、「自ら考え、創造し、思いやりを持ってたくましく生きる輝きのある子ども」を育むために、「傍を楽にする(楽しくする)」働きをしたいと思っています。

「自己の客観視と意識改革」

棚倉町立近津小学校長 永山 美雄

「信頼される学校づくりを職場の力で」の「第1はじめに」の冒頭に、1当事者として（自己の客観視）について述べられています。認知心理学用語の「メタ認知」という言葉と重なるのではないかと思います。私は常々、教職員の不祥事防止だけではなく、指導力向上や子どもたちの学力向上といった、管理職としての2大課題を解決するカギはここにあると思っています。教員が発する言葉は、子どもたちの教育において大きな影響を与えます。授業を参観すると、指導力の高い教員は誠に洗練された言葉を用いて授業をします。逆に、無計画で思いつくままの言葉を発して授業をする教員は指導力が低い傾向にあると思いますがいかがでしょうか。長い時間参観しなくとも教員の授業力は分かってしまうものです。

メタ認知力の高い教員は子どもたちに話をするとき、どうしたら心に響くかを考え戦略的に話しかけることができます。逆に、知らず知らずのうちに、子どもたちの心に傷をつけていても気づかないメタ認知力の低い教員もいます。子どもたちも同様です。自分をリサーチして分からないことをメタ認知できる子どもは、それを「知ろう」とするので学力が高い傾向にあります。逆に、分かる問題だけをやって〇をつけて満足している子どもは学力は上がりません。

校長は教員の実態をよく観察し、特にメタ認知力の低い教員に対して、適切な指導助言をすることが大切だと思います。その際、作戦を練ることが大切です。どうすればそのような教員に対して心に響く言葉をかけることができ、意識改革を図ることができるか熟慮しなければなりません。一人一人実態が異なるのでマニュアルはありません。その積み重ねと配慮が、最終的に教職員の不祥事防止と指導力の向上につながっていくと思っています。メタ認知力の高い教員を育てることで、子どもたちのメタ認知力も必然的に向上し、学力は向上することでしょう。校長の再任用制度で、中学校から小学校に変わりましたが、校長としてやることは同じだと思っています。それはズバリ、教職員の意識改革をすることです。

組織的な学び合いが大きな力に

東西しらかわ小学校長会研究部長 小峰 光
(西郷村立米小学校長)

本支会は、5つの班編制で研究が進められ、私たち校長職にあるものが、「職能」を高めるために、互いに学び合って、助け合って、共に高めていくことができる組織的研究活動を展開し、大きな力を得てきています。

今年度は、第Ⅲ期2カ年研究のまとめの年を迎えました。研究主題、副主題を受け「よき未来、よき人生のつくり手となる子どもたちを育成するための学校はどうあればよいか」にこだわって作られた「研究の手引き」のもとでの研究発表です。

「原点回避」。「研究主題にこだわった研究を進めて欲しい」と県校長会長様からも伝えられましたが、本支会では研究主題にこだわった計画的・組織的な実践研究が各班で進められてきました。

この2年間の研究成果を、皆様周知のとおり、7月のいわき大会において、第4分科会「豊かな人間性」（白河東班）、第5分科会「健やかな体」（棚倉班）に発表いただきます。また、棚倉班には、10月開催の全連小・東北連小秋田大会において第6分科会で「健やかな体を育む健康教育の推進と校長の在り方」でも発表いただきます。他3班には、いわき大会での各分科会への実践資料提供がごさいます。準備をよろしくお願ひします。

さて、今年度は、もう一つごさいます。令和2、3年度「研究のてびき」作成の年となります。令和3年度に開催予定の東北連小福島大会での発表を見越しての作成となります。県研究部も視点2全てを福島県各支会が発表することを前提に計画的に研究領域・研究課題・研究の視点、研究割り当て等の準備を進めてきております。

各班におかれましても、研究を進めるにあたり、各分科会の希望調査をはじめ、研究構想を整える県大会以後の半年になるものと思います。校務多忙の折ではありますが、各校の実態や課題を明確にして、各班で情報共有しながら、具体的な学校経営に関わる課題解決のための実効ある継続的かつ実践的な研究を進めていただければ幸いです。よろしくお願ひします。